

保険業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	3	0 ～ 1	地下鉄駅でホームへ行くため、駅階段を下り目的地の駅出口に便の良い電車乗り口に向かうためホーム上を歩いているときに線路に落ち、そこへ電車が入ってきて轢死した。	232	18	100 ～ 299
1999	2	16 ～ 17	会社の乗用車を運転して走行中に運転を誤って欄干に接触し、車から降りたが足元がふらつき欄干から川に落下した。	231	17	100 ～ 299
1999	4	16 ～ 17	集金した金の納金のためバイクに乗って走行中していて、市道を右折したときに後続乗用車が追い越しのため右側車線を通行してきて追突された。	231	17	30 ～ 49
1999	7	11 ～ 12	軽乗用車で走行中、緩い左カーブで対向の乗用車がセンターラインを越えてきて衝突した。	231	17	30 ～ 49
1999	9	15 ～ 16	客先へ行くため、信号機のない横断歩道を歩いていたときに、右折してきたトラックにはねられた。	221	17	30 ～ 49
1999	1	16 ～ 17	銀行へ行くため自家用車で国道を走行中、路面が凍結していたため緩い右カーブでスリップして対向車線にはみ出し、対向車と正面衝突した。	231	17	30 ～ 49
		0	社内の研修会終了後、ビルの階段を2階から降りる途中でつまずいて踊り場			10

2000	2	1	まで転落し後頭部等を強打した。	413	1	1	29
2000	10	11	契約者宅へ訪問するため原動機付き自転車で県道を走行中、右折して駐車	231	17	100	299
		12	場に入ろうとした自動車と衝突した。				
2001	5	14	生命保険の営業のため乗用車で走行中、交差点で右手方向から走行してき	221	17	10	29
		15	た4tダンプと激突した。				
2001	5	8	立体駐車場で出勤してきた社員が乗用車を立体駐車場に入れるため、自分	214	7	50	99
		9	の駐車パレットを操作盤で呼び出したところ、同僚がパレットの下敷きに				
			なっていた。				
2001	8	10	立体駐車場に車を入れたのち立体駐車場から出るときに、パレット(可動式	214	7	100	299
		11	の駐車スペース)が動き、パレットとの間に胸部を挟まれた。				
2001	10	9	国道を自家用車で走行中、左カーブを曲がりきれずにセンターラインを越	231	17	1	9
		10	え対向のトラックと衝突した。				
2001	12	14	出先での保険セールスから自転車で帰社していたときに、駐車場から後退	231	17	30	49
		15	してきた自動車に激突された。				
2002	5	18	信号交差点で停止させていた乗用車を発進させたところ、交差点の右側か	231	17	30	49
		19	ら直進してきた乗用車に衝突した。				
2002	8	11	軽自動車に3名が乗り町道を走行中、大型ダンプカーと衝突し2名が死亡し	221	17	1	9
		12	た。				
		11	軽自動車に3名が乗り町道を走行中、大型ダンプカーと衝突し2名が死亡し			1	

2002	8	～ 12	た。	221	17	9
2002	11	～ 14	同僚と2名で営業活動のため乗用車で走行中、対向車線をはみ出して対向の乗用車と衝突し、さらに後続のダンプカーに激突された。	231	17	100 ～ 299
2002	11	～ 14	同僚と2名で営業活動のため乗用車で走行中、対向車線をはみ出して対向の乗用車と衝突し、さらに後続のダンプカーに激突された。	231	17	100 ～ 299
2003	2	～ 15	損害調査員が乗用車で事故現場へ向かう途中、自動車道で渋滞のため停車していたときに大型タンクローリーに追突された。	221	17	100 ～ 299
2003	3	～ 14	自動車保険更新手続きのため、訪問予定先へ向けて自家用車で国道を走行中、橋の上で対向車線に進入し大型トラックと正面衝突した。	231	17	30 ～ 49
2003	3	～ 11	国道をワゴン車で走行中、道路右側の縁石を乗り越えて道路脇の未舗装の空地に入り、そのまま空地を横切って崖下約30mの岩場に転落した。	231	17	1～ 9
2003	10	～ 17	営業先へ向かって原付二輪車で走行中、反対車線から右折してきた車両（3tトラック）との接触を避けるため急制動したときに、バランスを崩し路上へ転倒した。	231	17	300 ～
2004	2	～ 1	会社所有の50ccスクーターで集金業務をしている時、自車進行方向車線が渋滞していたため、トラックの左側をすり抜けようとしたところ、対向車線から右折して駐車場に入ろうとしていた乗用車と激突した。	231	17	100 ～ 299
2004	4	～ 11	保険業務で自転車乗車中、左折するトラックに巻き込まれた。	221	17	100 ～ 299
		16				300

2005	3	～ 17	社用先から帰社途中、駅付近の踏切で電車にはねられた。	232	18	～ 499
2005	6	～ 16	車で走行中、国道の峠の頂上を通り過ぎて下り坂にさしかかったところで車がスリップし、横向きになって対向車線にはみ出し、対向してきた車の正面に助手席側から衝突した。	231	17	300 ～
2005	1	～ 12	11 信号のない交差点で被災者が運転する車が交差点に入り、右折しようとした時、右から直進して来たトラックと衝突した。	231	17	300 ～
2005	2	～ 18	17 乗用車で国道を走行中、トンネル入口手前の緩やかな右カーブで、1度センターラインを越えて対向車線にはみ出した後、再び元の車線に戻って 18 ガードレールに激突した。	231	17	1～ 9
2006	2	～ 18	17 自動車道の路上において、車外に出た被災者が別の乗用車にはねられた。	231	17	300 ～
2006	7	～ 14	13 被災者等は軽自動車に乗り、客先に向かって営業所を出発した。途中、国道 14 を走行しているとき、信号機が赤に変わったので停止していたところ、後続の4 tトラックが被災者等の乗っていた軽自動車に追突した。	221	17	30 ～ 49
2006	9	～ 11	10 客先宅へ訪問する際に、客先宅付近の国道上に自動車を停車させ、自動車の右側（車道側）に立って後部座席に積んでいた荷物を客先に持っていくために準備していたところ、後方から走行してきたトラックに衝突された。	221	17	10 ～ 29
2006	4	～ 8	7 自宅の2階で就寝していた被災者が起床予定時間になっても起床してこな いたため、妻が起こしにいったところ、息をしておらず、救急車で病院へ搬 送され、死亡が確認された。	921	90	300 ～
2007	7	～ 22	21 被災者は商談のため出張していた。商談が終わり、駅に向かおうとして道 路わきのチェーン付の柵をまたごうとしたところ、チェーンに足がひっか かり前のめりに転倒した。すぐに立ち上がったが、その直後、直立のまま	911	2	100 ～ 299

			後ろ向きに転倒した。			
2009	8	15 ～ 16	営業活動を終え、帰社するため県道の横断歩道を歩行中、右折してきた普通貨物車と衝突し死亡した。	221	17	100 ～ 299
2010	8	16 ～ 17	被災者が、業務で担当している会社を訪問するため、国道交差点の横断歩道を横断していたところ、同交差点を右折しようとしたトラックにはねられ、死亡したものの。	221	17	50 ～ 99
2010	9	16 ～ 17	営業のため、国道を走行中、被災者の運転する軽自動車が運転操作を誤ってセンターラインをオーバーし、対向してきた乗用車と正面衝突した。	231	17	10 ～ 29
2011	8	11 ～ 12	被災者が営業先へ所属する営業所の自転車を使用して移動している途中に、何らかの原因で車道に倒れていたところ、加害者が運転する自家用の普通乗用車に轢かれ、死亡したものの。発見時、被災者は仰向けになり両足が歩道の縁石に乗っていた。被災者が使用していた自転車は歩道に無傷のまま倒れていた。	231	17	10 ～ 29
2011	2	11 ～ 12	被災者が正社員として勤務していた営業所（以下、営業所）は、片側2車線の県道沿いにあるが、被災者が入社後マイカーで営業の仕事に行き、終えて営業所に戻る際、営業所前の当該県道の向こう側で被災者等が契約している駐車場にマイカーを止め、当該県道を渡ろうとして横断歩道でない箇所、信号で停車している車両の間を通過していたところ、右折車線を走行中の自家用車貨物自動車にはねられ、6日後に急性硬膜下血腫等により死亡	221	17	30 ～ 49
2011	11	12 ～ 13	片側2車線の直線道路で、追越車線を走っていた乗用車が車線変更し、走行車線を走行していた被災者のミニバイクに追突したものの	231	17	100 ～ 299
2012	11	13 ～ 14	出張先へ徒歩にて移動中、押しボタン信号機のある交差点にて歩行者青信号により横断歩道中、前方からの右折車に交差点内にて激突され、死亡した。	231	17	300 ～

2012	11	20 ～ 21	商談を終えて、高速道路を走行中にトラックの後部に追突した。	231	17	100 ～ 299
2013	1	9 ～ 10	被災者の妻が、自宅3階の被災者の部屋で、被災者が首を吊っているのを発見した。当時、被災者は受診先の病院で「うつ病」と診断されていた。	921	90	50 ～ 99
2013	11	12 ～ 13	直線道路上において、業務のために走行していたバン（リース車）と、10tトラックが正面衝突し、バンに乗車していた被災者が死亡した。	231	17	30 ～ 49
2013	7	11 ～ 12	建物等の状況の確認に訪れた際、車庫に雨漏りがあることを聞き、車庫の屋根の雨漏り箇所の状態を3名の労働者で確認していた際、被災者は、一人で当該車庫の西面のスレートでふかれた屋根に上った。その後、屋根上の被災者が、足元のスレートを踏み抜き、約6メートル下の車庫のコンクリート床面に墜落、頭部を強打した。	415	1	1～ 9
2015	5	20 ～ 21	研修出張中、研修を終えて同僚とともに宿泊先ホテルに向かう途中、青信号である横断歩道（交差点）を歩いていたところ、右折して進入してきたトラックにはねられ、全身打撲により平成27年5月22日13時30分に死亡したもの。	221	17	300 ～ 499
2015	10	14 ～ 15	顧客の保険契約内容の説明終了後、次の顧客先に自転車で移動中、後方から歩道を走行してきた軽乗用車にはねられた。	231	17	300 ～ 499
2016	11	10 ～ 11	事務所前の敷地でエンジンのかかった乗用車の前方に倒れている被災者を同僚が発見し、事務所にいる職員に声をかけて救急に通報した。救急隊を待っている際に職員が乗用車のエンジンを切ったところ、乗用車が動きだし、被災者を轢いて私道に出て止まった。	231	17	10 ～ 29
2016	10	18 ～	顧客宅に向かう途中、信号のない交差点で出会い頭に衝突し、車外に投げ出され死亡した。	231	17	300 ～

		19				499
2016	4	13 ～ 14	保険の募集勧誘業務のため普通乗用車を運転して移動していた被災者が、遮断警報器が鳴り、遮断機の遮断棒が下りている踏切内に進入し、進行してきた列車と衝突して死亡した。	231	17	10 ～ 29
2016	2	17 ～ 18	終業後、当番制で行っている帰宅前の社内戸締まり作業中、8階から7階に室内階段で降りる際、誤って足を踏み外し転落、頭部を強打した。	413	1	50 ～ 99
2018	9	6 ～ 7	自宅から一般試験の為、会場に向かう際、駅のホームから転落し、侵入してきた列車にひかれた。	232	18	50 ～ 99
2020	11	14 ～ 16	自動二輪車運転中に、左側を走行していた車両と接触。	231	17	10 ～ 29
2020	10	12 ～ 14	乗用車を運転して用務先に向かっている途中、国道の緩いカーブでセンターラインを越え、対向車線を走行していた大型トラックと正面衝突した。意識不明であったが、後日死亡した。	231	17	10 ～ 29
2020	7	20 ～ 22	3 tトラックを一人で運転して、高速道路下り線を走行中、片側2車線の追い越し車線から走行車線に移ろうとした際に、走行車線の10 tトラックに接触した。この反動で中央分離帯側壁に衝突し、車外に飛ばされ死亡した。	221	17	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。